

OpenStreetMapを活用した 地域コミュニティ支援の為の集合知モデル の提案



早川知道
Tomomichi Hayakawa
名古屋工業大学 伊藤孝行研究室
OpenStreetMap Foundation Japan

OpenStreetMapについて

- 自由な地理情報データ作成プロジェクト
 - 2004年 英国のSteve Coast氏により始められた
- Wikipediaの地図版
 - 世界の貢献者により精度と情報量を向上
 - 迅速な更新
- オープンソース的な地図データ
 - 自由にデータを利用出来る
 - Open-Database License (ODbL)

GoogleMaps があるじゃん！

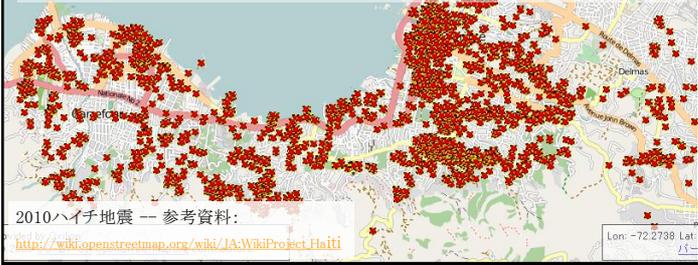
- GoogleMapsは、**無料の地図**だが
自由な地図では無い
 - 複製, 改変, 再配布は無断では出来ません！
- 印刷して配布したら**→アウト!**
 - 有償版を使いましょう
 - APIも有料化・・・

OpenStreetMapは自由な地図

- Free/Libre
 - 誰でも自由に編集可能
 - 誰でも自由に利用可能
 - ビジネス利用もOK
- Speed
 - いつでも更新可能
- Wiki
 - 多くの貢献者により精度と情報量を向上していく
- Community
 - OSMは世界規模のプロジェクト(コミュニティ)だが, 小さなコミュニティの集合体でもある.
By Steve Coast

クライスマッピング :: ハイチ地震

世界中の有志により被災状況を即時にデータ化
(衛星写真等を利用)
救済活動などに利用
国連からの要請もあった



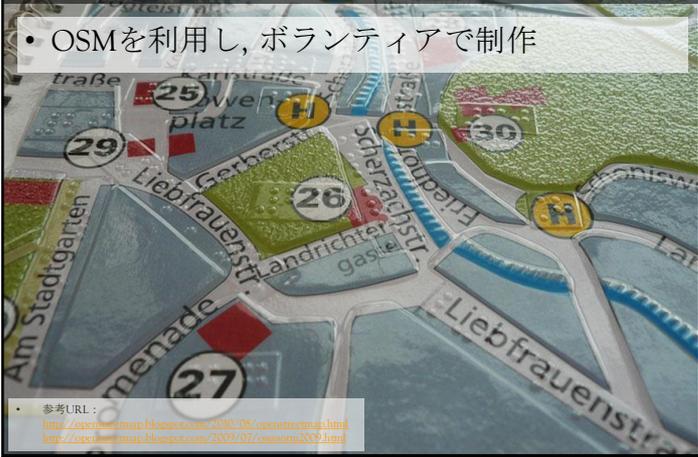
クライスマッピング :: 東日本大震災

クライスマッピングを元に
被災情報収集サイトを運用
(sinsai.info)



触地図 (視覚障害者向け地図)

OSMを利用し、ボランティアで制作



愛知県新城設楽山村振興事務所の事例

(日本で最初の自治体によるOSMの活用事例)
町おこし、観光開発
平成22年度緊急雇用創出事業を活用



しかし、私は失敗だっただと思っています

- 事業の目的
 - OSMの地図を充実させる事だけでは無い
 - OSM活動を通じた地域コミュニティの活性化
 - 町おこし, 観光開発
- トップダウンによる普及活動
 - 地元住民の理解が得られにくい
 - 受託事業者は, 所詮お仕事モード
 - 担当職員が変われば, 知らぬ存ぜん
- 地図は詳細に作成された
- しかし, 地元住民に根付いていないから, 地図データをメンテナンス出来ない
 - OSMの利点を生かせていない

OSMを地域に根付かせる為の提案

- Community
 - ボトムアップによる普及活動
 - 地元住民による活動
 - セミナー, マッピングパーティー等の普及活動
- Open Government (オープンデータ)
 - 自治体の情報公開とOSMへの理解が必要
 - 地元住民の活動の後押しに
 - Open Dataハッカソン活動などの推進
- Service
 - OSMデータを活用したサービスの提供
 - 防災, 福祉, 観光開発, など
 - 様々な用途に活用
 - 地元住民のインセンティブに元づく設計

期待される効果

- 地域コミュニティの活性化
 - 例えば, コミュニティによる「防災マップ」作りとか
- 住民による地域の再発見
 - OSMを通じた他地域との交流 (マッピングパーティー)
- 生活環境の改善
 - 独自情報を地図に反映可能
 - 時事情報や, 災害情報なども
- 新たなサービスの創造
 - OpenStreetMapは, 情報のプラットフォームとして機能
 - OSMとOpen Dataによるマッシュアップなど
- 地図のライセンス料の負担軽減
 - 例えば, 観光マップ作成時など

まとめ

みなさんも, ぜひ,
OpenStreetMapに触れてみてください

[Openstreetmap.org](https://openstreetmap.org)

